防衛大学校

NATIONAL DEFENSE ACADEMY

防衛大学校学生歌

田崎英之作詞
須摩洋朔作曲

1. 海青し　太平の洋
緑濃し　小原の丘辺
学舎は　光輝よひ
真理の　道の故郷
丈夫は　呼び交ひ集ひ
朝に　忠誠を誓ひ
夕に　祖国を思ふ
礎　ここに築かん
あらたなる　日の本のため

2. そびえたつ　若人の城
みはるかす　人の巷は
風荒み　乱れ雲飛び
ゆくてに　波さかまくも
丈夫は　理想も高く
朝に　勇智を磨き
夕に　平和を祈る
礎　ここに築かん
あらたなる　日の本のため

学生綱領

国家防衛の志を同じくしてこの小原台に学ぶ我々は、我々の手によって学生綱領を定めた。その目指すところは常に自主自律の精神をもって自己の充実を図り、厳しい徳性のかん養に努め、もって与えられた使命の完遂に必要な伸展性のある資質を育成するにある。
我々は、誠実を基調としてこの綱領を実践し、輝かしい防衛大学校の伝統を築くことを期するものである。

一、廉　恥
一、真　勇
一、礼　節

NATIONAL
DEFENSE
ACADEMY

目　次

防衛大学校学生歌 ……1
学生綱領 …… 1
設立の目的 ……2
防衛大学校の沿革 ……2
組織図 …… 3
学校長挨拶 …… 4
本校全景 …… 5
本　　科 …… 7
　教育訓練の方針 ……7
　受験資格 ……7
　学生の身分及び給与……8
　募集人員 …… 8
　卒業後の身分 …… 8
　教育課程 ……8
　修業年限、学年度及び学期…… 8
　訓練課程 …… 9
　学生隊 ……10
　学生の一日……11
　校友会活動 …… 12
　年間主要行事 …… 12
　海外士官学校との学生交流… 13
総合情報図書館 …… 14
防衛大学校資料館 …… 15
福利厚生…… 15
保険と医療……15
研究科 ……16
　理工学研究科前期課程 ……16
　理工学研究科後期課程 ……16
　総合安全保障研究科前期課程 17
　総合安全保障研究科後期課程 17

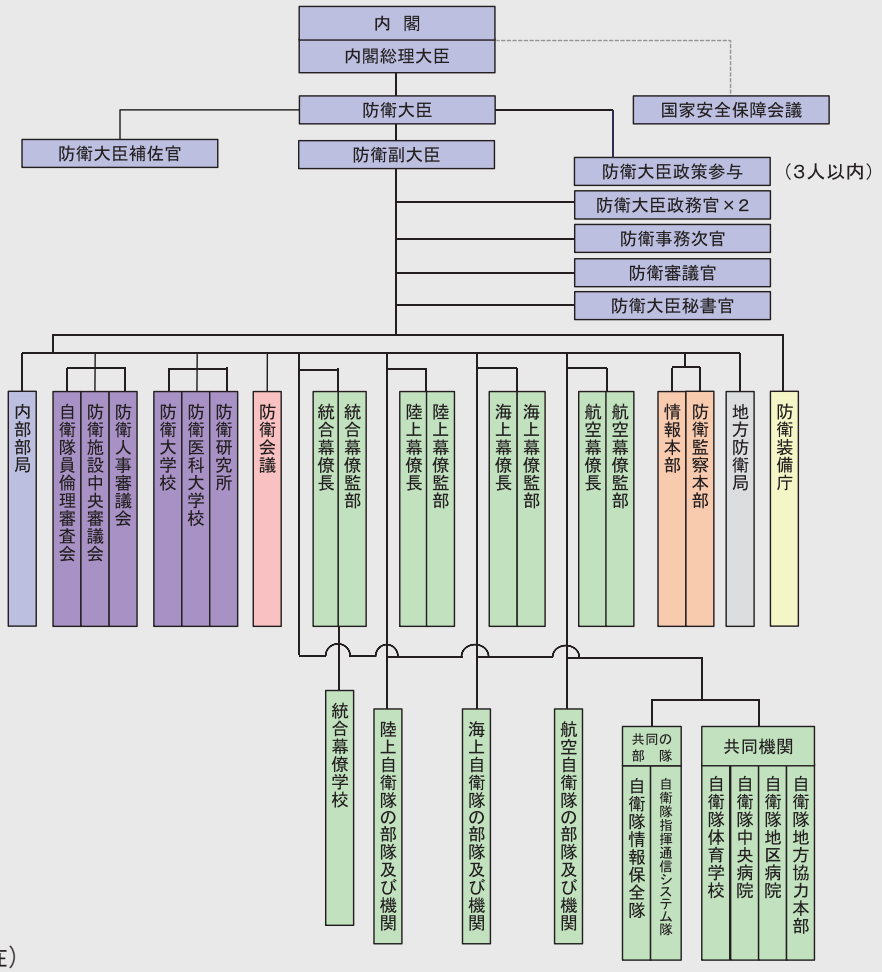
設立の目的

本校は、将来陸上・海上・航空各自衛隊の幹部自衛官となるべき者の教育訓練をつかさどるとともに、それらに必要な研究を行う防衛省の施設等機関です。

防衛大学校の沿革

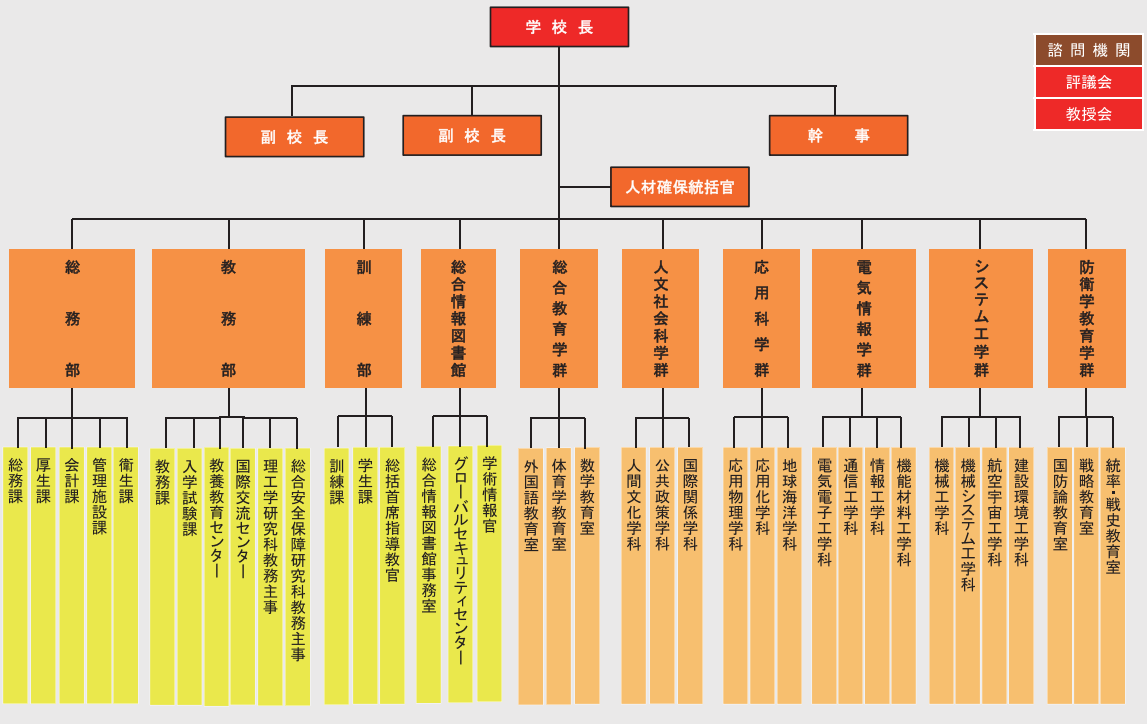
昭和27. 8. 1	保安庁の附属機関として保安大学校設置
昭和28. 4. 1	横須賀市久里浜の仮校舎で開校
昭和29. 7. 1	校名を防衛大学校と改名
昭和30. 4. 1	横須賀市小原台の新校舎に移転
昭和32. 3.26	本科第1期学生の卒業式を挙行
昭和37. 4. 1	理工学研究科開講（大学院の修士課程相当）
昭和49. 4. 1	人文・社会科学専攻を開講
昭和59. 7. 1	防衛庁設置法の改正により、施設等機関となる（防衛庁設置法第17条）
平成元. 4. 1	本科の教育課程の改革を実施し、専門区分を学科に再編成
平成 3.12.18	本科及び理工学研究科が大学の学部及び大学院の修士課程相当と認定
平成 4. 3.22	本科第36期卒業生に学士の学位授与
平成 4. 4. 1	本科第40期学生に初めて女性が入校
平成 4. 9.18	理工学研究科第29期卒業生に修士の学位授与
平成 8. 4. 1	理工学研究科教育課程の改革を実施し、専門・系列を専攻・大講座に再編成
平成 9. 4. 1	総合安全保障研究科開講（大学院の修士課程相当）
平成12. 4. 1	人文科学教室等の16教室を廃止し、教育目的や学問的共通性で区分した学群制を取り入れ、総合教育学群を始めとする6学群21教育室・学科に組織改編
平成12. 4. 1	本科教育課程の専門区分を14学科とした
平成12. 4. 1	理工学研究科に前期課程及び後期課程設置
平成13. 4. 1	理工学研究科後期課程を開講（大学院の博士課程相当）
平成19. 1. 9	防衛庁が防衛省に移行
平成20. 4. 1	総合安全保障研究科に前期課程及び後期課程設置
平成21. 4. 1	総合安全保障研究科後期課程開講（大学院の博士課程相当）
平成27. 4.10	教養教育センター及び国際交流センター発足
平成28. 4. 1	グローバルセキュリティセンター発足

我が国の防衛組織



（平成27年10月1日現在）

防衛大学校組織図



学群には、約315名（平成28年4月現在）の教官（その多くが、博士号を有する教授、准教授、講師、助教）が配置され、教育研究に従事しています。

学校長挨拶

近年、防衛の課題は我々の暮らす東アジアにおいて、ますます大きく複雑化しつつあります。核兵器等の大量破壊兵器の拡散、ミサイル開発などをはじめとした軍備増強、それに海洋権益や領土をめぐる摩擦や紛争も多発化・深刻化しつつあります。自衛隊はそうした現実の中で、厳しい財政と人員の事情を抱えつつも、日夜努力し、今後は陸・海・空の自衛隊を一体化させ、より即応性を備えた「統合機動防衛力」の充実を図ることを目指しております。

こうした活動は、普段、一般の国民の目には見えないものでありますが、見えないところでしっかりと日本を守り、支えているのです。自衛隊はまた、PKO（平和維持活動）や人道支援、災害復興支援などの面でも危険と背中あわせの中で努力を重ね、国際的評価も上がってきております。特に、東日本大震災や熊本地震における自衛隊員たちの献身的な救助・復旧活動は長く記憶に留められることでしょう。このような活動は一般の生活の中で注目を浴びるわけではありませんが、時間をかけて地道に蓄積してきた成果であります。私は自衛隊が歴史と経験の中で培ってきた積み重ねの実績と資産が、いまようやく陽の目を浴び、評価されているのだと思います。

防衛大学校は、昭和27年（1952年）、その前身となる保安大学校として誕生し、昭和29年に防衛大学校に改名し、翌30年に現在の小原台に移転して今日にいたっております。本校は第2次大戦後、吉田茂首相の発案によりその構想が始まり、吉田と親しかった小泉信三元慶應義塾長の推挙により槇智雄元慶應義塾常任理事が初代の学校長に就任いたしました。現在にいたるまでの本大学校の基礎を創り上げたのは、まさにこの槇智雄初代学校長の時代であります。彼の崇高な理念と強力なリーダーシップのもとで、本校は戦前と一線を画し、陸・海・空の幹部候補を統合的に教育するという民主主義時代の新たな士官学校としてスタートいたしました。

我々は、この実績と資産をさらに大きく確実なものとしなければなりません。有為で使命感に溢れるリーダーを確実に社会に供給し続けること、それが防衛大学校に課せられた我々の責務です。必ずしも、我々が社会を先導するわけではありません。我々の役割は、日本というかけがいのない祖国とそこに住む人々の独立と平和と安全を、最後の一線で守り抜くことです。一般の大学では、学生たちは大学生活を通して自分の人生を考え、それを就職活動などで生かそうとします。しかし実際には多様化する社会と価値観の中で、自分自身を見失いそうになることも多いのが実情です。防衛大学校はそれとはまったく異なります。卒業後の仕事とその使命（ミッション）は明確であります。日本という国家と日本人の独立・平和・安全を守ることであります。これは私的ではなく崇高な公共の使命であります。

近年、防衛大学校は入学制度の多様化を進めることで、全国からさまざまなタイプの学生を集める努力を展開しております。また本校は、優れた施設・設備の中で充実した教育制度と学生生活を実現すべく、教職員が一体となって継続的に改革を行っております。日常生活の中心となる学生舎では、同期、先輩、後輩との切磋琢磨を通じて一生の仲間を得ることになるでしょう。厳しい訓練や規律習得があることも事実ですが、多様な専攻と授業科目、少人数教育による徹底指導、充実した英語教育、遠泳・スキー・パレード・棒倒し・ダンスパーティ等、他校には見られの機会、多様な校友会（クラブ・サークル）活動等々、普通のないバラエティに富む学校行事、数多い海外派遣や短期留学大学生生活では味わえない充実感に満たされることは間違いありません。そして最後には、総理大臣と防衛大臣が参列される卒業式が待っているのです。

防衛大学校は東京湾と富士山を望む三浦半島・横須賀の小原台に位置し、自然環境が非常に豊かで、最高の教育環境といってもいいでしょう。すばらしい教育・研究・訓練施設の中で、優秀な教育スタッフ、真摯で熱情あふれる訓練教官、学校と学生への思いにあふれる職員に囲まれ、防衛大学校の学生諸君は必ずや生涯忘れられない青春時代を過ごすことになるでしょう。

今後とも、防衛大学校はこれまでの実績と経験の蓄積のうえにさらなる努力を重ね、日本と世界の平和と安全のために前途有為な人材を輩出することに邁進いたします。

防衛大学校長
國分 良成（こくぶん りょうせい）

防衛大学校は、三浦半島東南端の標高85メートルの小原台に位置し、西に富士の秀峰を仰ぎ、東に房総半島の山々を望み、眼下には紺碧の東京湾を見下ろす景勝の地にあります。

敷地は、約65万平方メートル、建物延約20万平方メートルのほか、走水海岸には海上訓練場があります。

撮影日:平成26年1月16日

39
44
27
46
31
34
35
43
26
30
33
43
25
24
32
23
20
22
17
21
16
19
15
18
2
1
8
7

本科

教育訓練の方針

教育訓練は、次の各号に掲げる方針に基づき、特に広い視野を開き、科学的な思考力を養い、豊かな人間性を培うことに留意して、その効果を総合発揮するよう計画実施されています。

1 教育訓練、規律ある団体生活及び学生の自発的に行う各般の活動において、心身を鍛え徳操をみがき人格の陶冶（とうや）に努めるとともに、自主自律、積極敢為の気風を養い、国家及び社会の一員としてはもとより、幹部自衛官としてその職責を尽し得る性格を育成しています。

2 教育課程においては、大学設置基準に準拠して、一般教育、人文・社会科学又は理工学及び防衛学に関する学理及びその応用を授け、幹部自衛官として必要な基礎となる学力及び技能を育成しています。

3 訓練課程においては、自衛隊の必要とする基礎的な訓練事項について錬成し、幹部自衛官としての職責を理解してこれに適応する資質及び技能を育成しています。

4 学生全員の参加する体育活動及び各種の運動競技を通じて、訓練とともに強健な体力とおう盛な気力を育成しています。

5 あらゆる機会において、陸上・海上・航空各自衛隊の幹部自衛官となるべき者の間に、理解協力の気風を育成しています。

応募資格

1

推薦採用試験

日本国籍を有し、入校する年の4月1日において18歳以上21歳未満の者で、人物・健康ともに優れ、将来、幹部自衛官になる強堅な意志を持ち、高等学校等を卒業した者及び入校する年の3月に卒業見込みの者の中から次に該当する者で、高等学校長等が防衛大学校学生として、ふさわしいと認め、責任をもって推薦できる者

成績優秀者かつ、生徒会活動又は部活動等において顕著な指導力を発揮した実績がある優れた資質を有する者等

2

総合選抜採用試験

日本国籍を有し、入校する年の4月1日において18歳以上21歳未満の志操健全、身体強健な者のうち、次の各号のいずれかに該当する者（ただし、自衛官である者は23歳未満）で、合格した場合には、防衛大学校への入校を確約できる者

（1）高等学校等卒業者（入校する年の3月に卒業見込みの者を含む。）
（2）前号に掲げる者と同等以上の学力があると文部科学大臣が認めた者（入校する年の3月31日までにこれに該当する見込みのある者を含む。）
（3）高等専門学校第3年次修了者（入校する年の3月に修了見込みの者を含む。）

3

一般採用試験（前期日程・後期日程）

日本国籍を有し、入校する年の4月1日において18歳以上21歳未満の志操健全、身体強健な者のうち、次の各号のいずれかに該当する者（ただし、自衛官である者は23歳未満）

（1）高等学校等卒業者（入校する年の3月に卒業見込みの者を含む。）
（2）前号に掲げる者と同等以上の学力があると文部科学大臣が認めた者（入校する年の3月31日までにこれに該当する見込みのある者を含む。）
（3）高等専門学校第3年次修了者（入校する年の3月に修了見込みの者を含む。）

学生の身分及び給与

学生の身分は、特別職の国家公務員です。全員学生舎に居住し、被服、寝具、食事などが貸与又は支給されるほか毎月学生手当が支給されます。また、6月、12月には期末手当が支給されます。

その他

本校では、国際社会に対応できる人材育成に力を入れるとともに、すべての学生が毎年TOEICを受験することになっています。また、情報技術（IT）化に伴い、情報処理能力を身に付けさせるための教育及び教育施設の充実整備に力を入れています。

募集人員

募集人員は480名を基準とします。陸上・海上・航空各自衛官の要員配分及び専門配分は第2学年に進級の際に行います。

卒業後の身分

卒業後は、陸・海・空曹長に任命され、幹部候補生として自衛隊の幹部候補生学校（陸上…久留米、海上…江田島、航空…奈良）における教育を受け、その後部隊又は海上勤務を経て本校卒業後約1年で幹部自衛官に任命されます。

教育課程

教育課程は、大学設置基準に準拠し、教養教育、外国語、体育、人文・社会科学専門又は理工学専門及び本校独自の防衛に関する諸問題の学際的な研究分野である防衛学の教育を行っています。

1、2学年で専門基礎を履修するとともに、2学年からは各学科に分かれ専門科目を履修し、4学年で指導を受けて卒業論文を提出します。教養教育、外国語、体育及び防衛学は1～4学年にわたって履修します。

なお、上記教育課程内の教養教育科目・専門科目を用いて人社系・理工系にまたがり、学科を横断する形で所属学科以外の他の領域も効率的に学べ、幅広い視点からの総合的な問題解決能力向上を目的とする「教育プログラム制度」が24年度から開設されています。「危機管理」、「安全科学」、「生命科学」、「国際交流」の4つのプログラムがあります。

【修得単位】

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="3">科目区分</th><th colspan="3">卒業に必要な単位</th></tr>
<tr><th colspan="2">防衛大学校</th><th rowspan="2">大学設置基準</th></tr>
<tr><th>人文・社会科学専攻</th><th>理工学専攻</th></tr>
<tr><td colspan="3">教養教育</td><td>24</td><td>24</td><td rowspan="20">124以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語</td><td colspan="2">英　語</td><td>12</td><td>12</td></tr>
<tr><td colspan="2">独・仏・露・中国・朝鮮・アラビア・ポルトガル語</td><td>（一つの外国語）
2</td><td>（一つの外国語）
2</td></tr>
<tr><td colspan="3">体　育</td><td>6</td><td>6</td></tr>
<tr><td colspan="3">専門基礎</td><td>18</td><td>30</td></tr>
<tr><td rowspan="14">専門</td><td rowspan="3">人文・社会科学専攻</td><td>人間文化学科</td><td rowspan="3">66</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>公共政策学科</td></tr>
<tr><td>国際関係学科</td></tr>
<tr><td rowspan="11">理工学専攻</td><td>応用物理学科</td><td rowspan="11">54</td></tr>
<tr><td>応用化学科</td></tr>
<tr><td>地球海洋学科</td></tr>
<tr><td>電気電子工学科</td></tr>
<tr><td>通信工学科</td></tr>
<tr><td>情報工学科</td></tr>
<tr><td>機能材料工学科</td></tr>
<tr><td>機械工学科</td></tr>
<tr><td>機械システム工学科</td></tr>
<tr><td>航空宇宙工学科</td></tr>
<tr><td>建設環境工学科</td></tr>
<tr><td colspan="3">防衛学</td><td>24</td><td>24</td></tr>
<tr><td colspan="3">合計</td><td>152以上</td><td>152以上</td><td>124以上</td></tr>
</table>

【学位授与】

本科を卒業し、独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構の行う審査に合格すれば、学士の学位が授与されます。

修業年限、学年度及び学期

学生の修業年限は4年間で、学年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終ります。

また、学年度は前学期及び後学期の2学期となっています。

訓練課程

区　別		科　目	合計時間	備　考
共通訓練		部隊見学、基本教練、各個戦闘訓練、小銃、野外勤務、カッター、衛生、体育、水泳、スキー、教育法、硫黄島研修等	1,005	訓練は共通の訓練と2学年から陸上・海上・航空要員別に分かれて実施される要員別の訓練に区分され、毎週2時間を基準とする課程訓練と、春・夏・秋・冬に年間約6週間の定期訓練により実施されます。
要員訓練	陸上要員訓練	戦闘訓練、野戦築城、歩哨・斥候、各種武器、通信、指揮運用基礎、部隊実習等		
	海上要員訓練	航海概論、水泳、気象、信号通信、海事法規、カッター、ヨット、機動艇、艦橋副直士官演習、乗艦実習、航空実習等		
	航空要員訓練	滑空機訓練、航空作戦、指揮幕僚活動、基礎警備、航空機整備、通信電子、航法、保命、航空交通管制、部隊実習等		

射撃

水泳（遠泳）

スキー

戦闘訓練

潜水艦研修

滑空機訓練

野外勤務（歩哨）

艦橋副直士官演習（NAT）

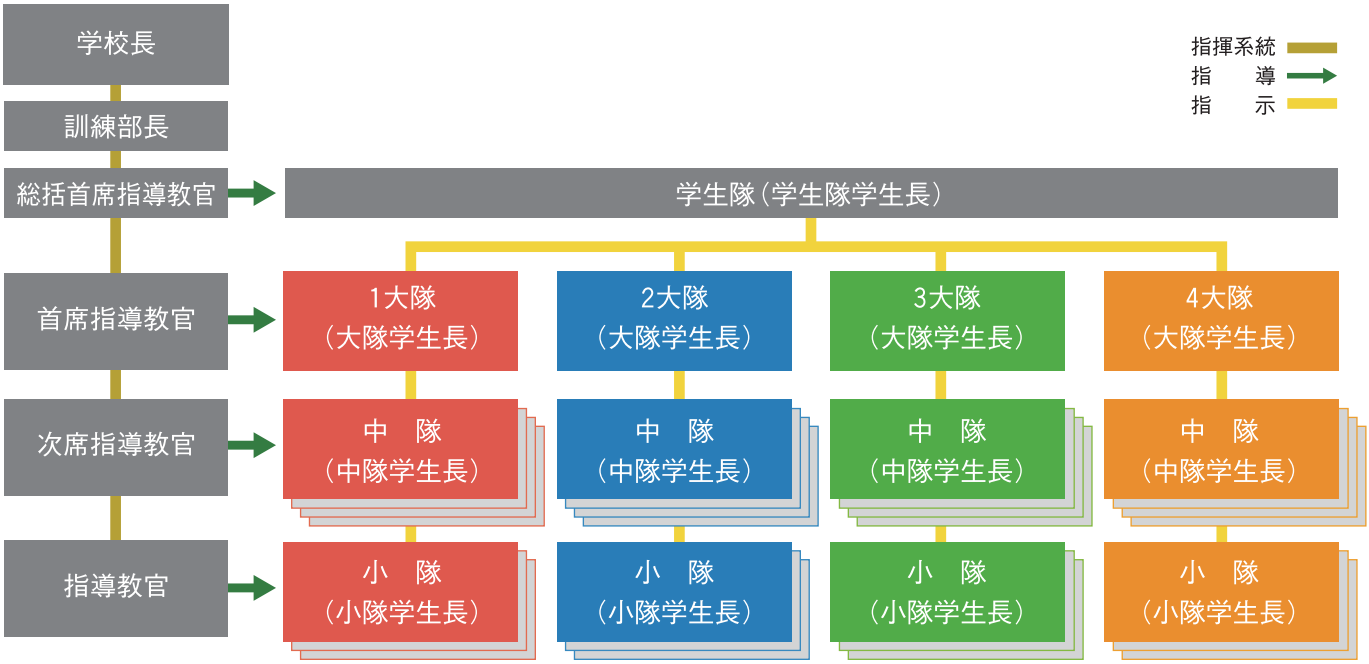
部隊実習（航空団）

学生隊

本校における特徴の一つとして、学生隊が挙げられます。学生隊は、学生の共同生活を円滑にし、合わせて将来部隊においての指揮、指導、管理等の能力の向上に資するため、また、自律心をかん養するため全学生をもって編成しています。

学生隊は、4個大隊からなり、1個大隊は4個の中隊、1個中隊は3個の小隊で編成されています。(1個小隊30～40名程度)

【編　成】



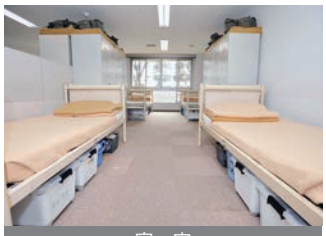
学生舎

自習室

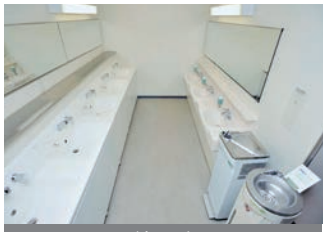
【学生舎】

学生は、入校と同時に全員校内の学生舎で規律正しい生活を送ることになります。

学生舎には、自習室、寝室、集会室、応接室、面談室、シャワー室、洗濯室等の設備があります。


寝　室

給湯室


洗面所

洗濯室

学生の一日

防衛大学校では決められた日課に従って規則正しい生活を送っています。防大生の多忙な一日を、起床から就寝まで時間を追って紹介します。

AM

6：00 起床
起床ラッパの音で一斉起床。5分で寝具を片付け、着替えを済ませて学生舎前に整列します。

6：05 日朝点呼
朝の人員確認。集合時、乾布摩擦を行います。
（女子はTシャツを着用）

6：10 ～ 6：30 清掃

6：35 ～ 7：20 朝食
セルフサービスでの食事。朝はパンかご飯が選べます。

8：00 国旗掲揚／朝礼

8：10 課業行進
整列して教場へ行進。部隊行動の基礎を修得します。

8：30 ～ 11：40 授業[1～4時限]
各教場で授業が行われます。

PM

12：00 ～ 昼食
全員が学生食堂に集合し、一斉に昼食をとります。
連絡事項の伝達、確認も同時に行われます。

13：00（月水金） 課業行進

13：15 ～ 17：15 授業[5～8時限]

校友会活動（課業終了後）

17：30 入浴（17:30～19:15）

17：30 国旗降下

18：15 ～ 19：15 夕食
学生同士で談笑しながら、
セルフサービスで食事をとります。

19：35 日夕点呼

19：45 ～ 22：20 自習時間
自習室で各自勉強。

22：30 消灯
特に必要がある場合、02:00まで消灯を延長することができます。

校友会活動

校友会は、運動、文化の各分野における活動を通じ、会員の品性の陶冶、体力・気力の増進及び会員相互の親睦を図り、もって本校教育訓練の完成に資することを目的として組織され、委員会、運動部、文化部、同好会に分かれています。学生は、希望するいずれかの運動部等に加入することとなっています。

陸上競技部

相撲部

ボクシング部

ボート部

ラグビー部

グライダー部

柔道部

ハンドボール部

儀仗隊

委員会等

短艇委員会／新聞委員会／雑誌委員会／放送委員会／☆各種行事準備委員会／☆学生会計監査委員会／☆校友会応援団／☆哀悼行事実行委員会 ☆印の委員会は常設されていない委員会
応援団リーダー部／アカシア会（社交ダンス）／儀仗隊

運動部

バスケットボール部／山岳部／ワンダーフォーゲル部／柔道部／水泳部／パラシュート部／ラグビー部／ハンドボール部／準硬式野球部／サッカー部／アメリカンフットボール部／合気道部／剣道部／ヨット部／体操部／空手道部／銃剣道部／弓道部／バレーボール部／グライダー部／少林寺拳法部／卓球部／ソフトテニス部／フェンシング部／陸上競技部／ボクシング部／ウエイトリフティング部／硬式庭球部／レスリング部／相撲部／硬式野球部／ボート部／バドミントン部／射撃部／フィールドホッケー部／居合道部／自転車競技部

文化部

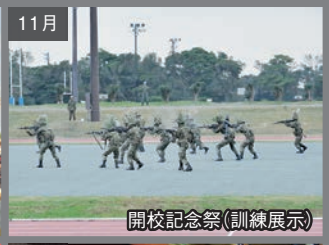
茶道部／弁論部／英会話部／写真映画研究部／棋道部／吹奏楽部／音楽部／軍事史研究部／軽音楽部／国際関係論研究部／古典ギター部

同好会

自動車同好会／生花同好会／美術同好会／タイ文化研究同好会／韓国文化研究同好会／紅太鼓同好会／ベトナム文化研究同好会／インドネシア文化研究同好会／文芸同好会／防衛学研究同好会／詩吟同好会／書道同好会／モンゴル文化研究同好会／模型製作同好会／心理研究同好会／カンボジア文化研究同好会／東ティモール文化研究同好会／コンピュータ研究同好会／ダイビング同好会

年間主要行事

4月　入校式
　　春季定期訓練
　　カッター競技会
7月　夏季定期訓練
　　遠泳
8月　夏季休暇
9月　水泳競技会
　　前期定期試験
10月　秋季定期訓練
11月　開校記念祭
12月　冬季定期訓練（3･4学年）
1月　冬季定期訓練（2学年）
2月　定期後期試験
3月　断郊競技会
　　持続走競技会
　　卒業式



海外士官学校との学生交流

【国際士官候補生会議】

オーストラリア、フランス、ドイツ、マレーシア、フィリピン、韓国、シンガポール、タイ、英国及びアメリカなど十数カ国の士官候補生を招へいし、約1週間の日程で、国際情勢及び安全保障に関する討議等を行っています。

第20回国際士官候補生会議

【外国人留学生の受入れ】

本校では、これまでタイ、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、モンゴル、ベトナム、韓国、ルーマニア、カンボジア、東ティモール、ラオス及びミャンマーの士官候補生等をそれぞれ留学生として受入れ、日本の学生同様に教育訓練を行っております。現在の本科留学生数は114名（平成28年4月現在）であり、この他に研究科に在学する者もいます。

日本語課程の授業

【本校からの海外留学】

海外士官学校との交流は、将来の幹部自衛官として必要な国際的視野に立脚した識見を養うとともに、伸展性のある資質を育成する事を目的として、短期交換留学制度と長期交換留学制度があります。

短期留学

短期的な留学制度として、1～3週間各国（韓国、シンガポール、英国、アメリカ、中国、ブラジル、ロシア、カナダ等の各士官学校）に派遣し、また逆に各士官学校（オーストラリア、韓国、アメリカ、シンガポール、インド、タイ）の学生の受け入れを行う交換留学制度があります。

長期留学

長期的な留学制度として、韓国、アメリカ、フランス、ドイツ、カタール、オーストラリア等（陸・海・空軍各士官学校）に4か月間から1年間派遣し、またそれぞれの国からの学生を受け入れています。

海外士官候補生との交流

総合情報図書館

総合情報図書館全景

入退館システム

ブラウジングコーナー

平成21年4月に図書館と学術情報センターを統合し、「総合情報図書館」と改称しました。

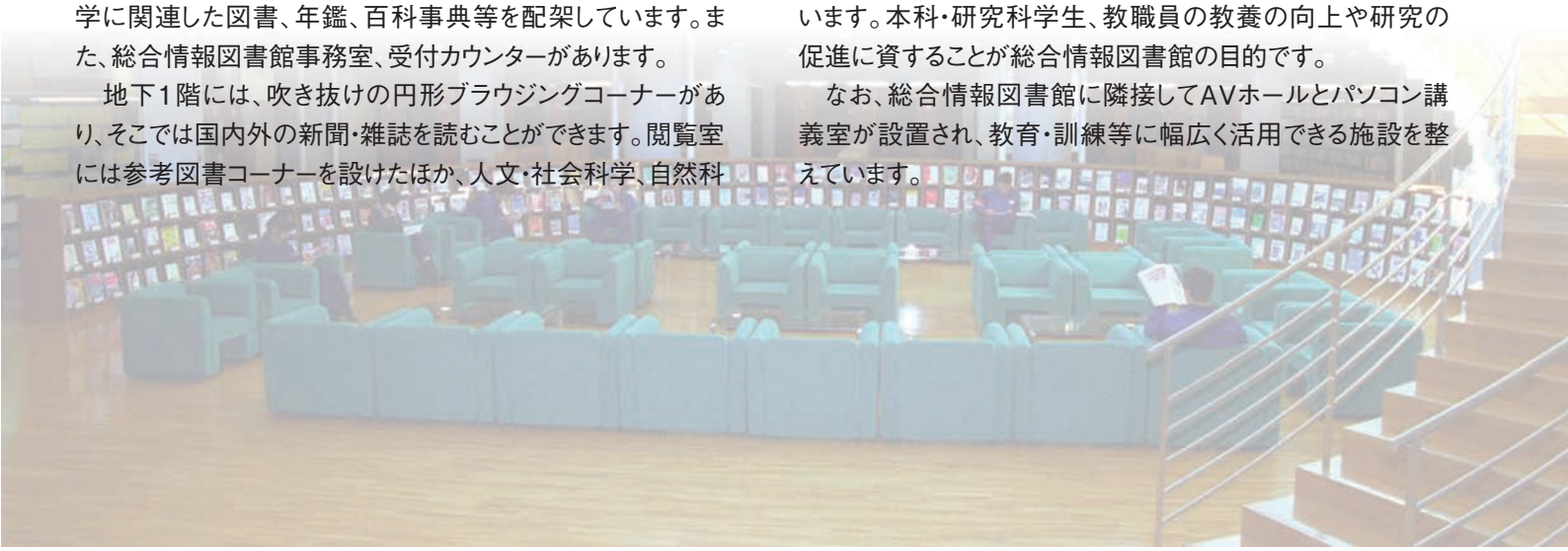
総合情報図書館は、地上1階・地下1階建てで、各階ともにゆとりのある空間をつくっています。入口には、入退館システムを設け、入口近くに図書の自動貸出・返却装置を設置しました。参考書等の持ち込みを可能とし、利用者へのスムーズなサービスを実現しています。

1階には、図書情報検索コーナー、展示コーナー、AVコーナーを設けました。閲覧室の書架には、国防・軍事や情報科学に関連した図書、年鑑、百科事典等を配架しています。また、総合情報図書館事務室、受付カウンターがあります。

地下1階には、吹き抜けの円形ブラウジングコーナーがあり、そこでは国内外の新聞・雑誌を読むことができます。閲覧室には参考図書コーナーを設けたほか、人文・社会科学、自然科学、技術工学に関連した図書等を配架しています。また、一般の閲覧室に加えて、研究個室を併設した研究閲覧室や、グループ研究室を設置し、長時間、集中して研究する利用者に最適な環境を整えています。

総合情報図書館は、大学図書館基準に適合するよう整備を実施し、各種専門図書をはじめ学習用図書、教養図書、貴重図書を所蔵しています。また、校内LANを利用した情報検索サービスを提供するとともに、ホームページ等を通じて情報を発信し、他大学の図書館との情報交換・相互利用に努めています。本科・研究科学生、教職員の教養の向上や研究の促進に資することが総合情報図書館の目的です。

なお、総合情報図書館に隣接してAVホールとパソコン講義室が設置され、教育・訓練等に幅広く活用できる施設を整えています。



防衛大学校資料館

平成17年3月、学生教育に資することを目的に開設されました。1階には、シンボルモニュメント、校内ガイダンス、大学校のあゆみを、2階には今日の学校生活、卒業後の針路を展示し、教育理念、周辺地理、歴史、教育、訓練、学生舎生活、校友会活動等について知ることができるようになっています。また、平成20年10月、初代槇学校長の建学精神を展示した「槇記念室」を1階に開設しました。

槇記念館

防衛大学校の歴史

福利厚生

学生が校内生活を営む上で欠かすことの出来ない福利厚生施設として学生会館があります。

学生会館の地階、1階及び2階には、コンビニエンスストア、理容、美容、クリーニング、宅配、喫茶、電気製品、スポーツ用品、土産品及び日用雑貨等の販売を委託しているほか、学生会館入り口には、市中銀行のATMを2台設置しており、学生の校内生活の充実を図っています。

2階には、厚生課事務室があり、福利厚生業務を担当しています。各種物品の貸出、共済組合事業を担当し、学生及び教職員とその家族の生活の安定と福祉の向上に努めています。共済組合事業は、病気時における医療給付、年金給付、貸付事業等幅広いサポートを行っています。また、切手類等の販売窓口もあります。

3階と4階は学生の自由活動の場として、校友会クラブの部室があるほか、4階の大・中ホールは多目的に利用することが出来ます。

また、1階及び2階には、学生等が自由にくつろげる談話スペースが設置されています。

学生会館

委託売店「コンビニ店」

保健と医療

本科・研究科学生及び教職員の保健については、健康保持のため各種健康診断等を行い、適時適切な保健指導を実施するとともに「こころ」と「からだ」の健康相談も行っています。

一方、医療については、病気やケガの際には医務室において診療を行い、必要に応じて校外の医療機関にも診察を委託しています。なお、本科学生及び自衛官の医療費は、防衛省医療機関では全額国費をもって支払われています。

医務室

医務室での診療

研究科（大学院相当）

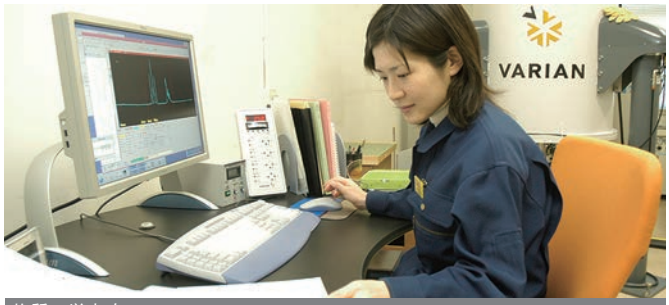
研究科は、「自衛隊の任務遂行に必要な高度の理論と応用についての知識並びにこれらに関する研究能力を修得させるための教育を行う。」ことを目的としており、その教育内容は、**大学院設置基準の修士課程・博士課程に準拠**しています。

学生を選抜するための試験は、防衛省各機関の長の推薦を受けた者について行います。この推薦は幹部自衛官又は自衛官以外の隊員で、**理工学研究科前期課程及び総合安全保障研究科前期課程**においては、防衛大学校を卒業した者、学校教育法による大学を卒業した者又は文部科学大臣がこれらと同等以上の学力があると認めた者のうちから行われることになっています。

また、**理工学研究科後期課程及び総合安全保障研究科後期課程**においては、理工学研究科前期課程（第38期までは理工学研究科）又は総合安全保障研究科前期課程（第11期までは総合安全保障研究科）を卒業した者若しくは入校日までに卒業見込みの者、修士の学位を有する者若しくは入校日までに取得見込みの者又は防衛大学校長が修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者のうちから行われることになっています。

卒業には、履修すべきものと定められている授業科目について所定の単位数を修得し、卒業論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。

なお、独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構が実施する、論文の審査と試験に合格すると、理工学研究科前期課程については修士（理学または工学）及び総合安全保障研究科前期課程については修士（安全保障学）の学位が授与されます。また、理工学研究科後期課程については博士（理学または工学）及び総合安全保障研究科後期課程については博士（安全保障学）の学位が授与されます。



物質工学専攻

地球環境科学専攻

機械工学専攻

理工学研究科前期課程（修士課程相当）

自衛隊の任務遂行に必要な理学及び工学に関する高度の理論と応用についての知識並びにこれらに関する研究能力を修得させるための教育を行っています。

1学年の学生数は90名が基準であり、修業年限は2年です。専攻は「電子工学」、「機械工学」、「航空宇宙工学」、「物質工学」、「情報数理」、「境界科学」及び「地球環境科学」の7専攻です。

理工学研究科後期課程（博士課程相当）

益々高度化・ハイテク化する防衛装備・技術に対応し、これら分野における自立した研究開発能力を有する人材を育成するため、専門的かつ高度な研究能力及びその基礎となる学識を修得させるための教育を行っています。

1学年の学生数は20名が基準であり、修業年限は3年です。専攻は「電子情報工学系」、「装備・基盤工学系」及び「物質・基礎科学系」の3専攻です。

総合安全保障研究科前期課程（修士課程相当）

社会科学の専門的学識に裏付けられた安全保障に関する幅広い視野と高度の実践的問題解決能力を養うための教育を行っています。

1学年の学生数は20名が基準であり、修業年限は2年です。専攻は「総合安全保障」の1専攻で構成され、この専攻の中に「国際安全保障コース」、「戦略科学コース」及び「安全保障法コース」の三つの履修コースを設けています。

総合安全保障研究科後期課程（博士課程相当）

安全保障研究の一大拠点として、高度化・多様化した安全保障・戦略問題の最新の研究成果を踏まえ、安全保障の広い領域にわたる高度の専門的学識と実務的能力を持つ人材を養成します。

1学年の学生数は7名が基準であり、修業年限は3年です。専攻は「総合安全保障」の1専攻です。

総合安全保障専攻

開校記念祭　観閲式

防衛大学校同窓会からの寄贈

ステンドグラス「若人の城」（原画作者 平松 礼二 画伯）

モニュメント「国の護り」（彫刻家 高橋 洋 作）

「建学の碑」

初代槇学校長肖像画

防衛大学校経路図

■ JR横須賀線「横須賀駅」下車、
京浜急行バス「防衛大学校」行きに乗車約30分です。（バス乗車場3番）

■ 京浜急行電鉄「馬堀海岸駅」下車、
京浜急行バス「防衛大学校」行きに乗車約6分、又は徒歩で約25分です。

※新幹線・新横浜駅～馬堀海岸駅まで約60分

※飛行機・羽田空港国内線ターミナル駅及び羽田空港
国際線ターミナル駅～馬堀海岸駅まで約70分

■ 横浜横須賀道路、馬堀海岸インターから約5分です。

所在地　〒239-8686　神奈川県横須賀市走水1丁目10番20号
電　話　横須賀 046(841)3810(代表)　FAX　046(843)6236
Eメールアドレス　ndainfo@nda.mod.go.jp
ホームページアドレス　http://www.mod.go.jp/nda/

リサイクル適性Ⓑ
この印刷物は、板紙へ
リサイクルできます。

刊行日：2016.9